



同窓会だより

校訓

けいしん あいち
 敬心 愛知
 けんし りょっこう
 堅志 力行

会長挨拶

同窓会長 戸野法史



同窓生の皆様には、オミクロン株の蔓延する状況の中でも、ご健勝にてお過ごしのことと拝察しています。

今春、大崎海星高校から大久保信行校長先生をお迎えしました。少子化の中で魅力のある学校づくりを進めていかれることと期待していますので、同窓会としても母校との連携を深めたいと思います。

さて、昨年（令和3年）11月に母校創立100周年記念式典を挙行し、今年（令和4年）3月末をもって記念事業を終了することができました。事業開始から7年、同窓生のみならずには物心両面にわたるご支援を頂戴し衷心から感謝申し上げます。

記念事業にお寄せいただいた寄付金等の使途と事業内容について、同窓会総会の場でご報告する予定でしたが、コロナ禍の中で総会を中止することになりました。同窓会規約にもとづいて、常任理事会の承認をもって総会の議決に代えましたので、議案書・会計監査報告書等を同窓会ホームページに掲載し報告に代えさせていただきます。

総会予算書をご覧くださいと、同窓会収入が、卒業生の入会金3,000円に大きく依存していることがわかります。生徒減に伴う収入減少は避けられないので、何らかの方法で収入拡大を図り、同窓会活動を充実・活性化することが喫緊の課題となっています。

同窓会役員のご意見を結集し、これらの課題解決に努めますので、引き続きご支援とご理解をいただきますようお願い申し上げます。

※お手数ですが右のQRコードから三原高校同窓会ホームページにアクセスし、ご確認ください。詳しくはP4に掲載しています。



野球部の夏 令和4(2022)年

7月9日、シード校として2回戦（対広工大高校）に臨んだ硬式野球部は、エースの松田投手を中心に選手全員が前評判通りの実力を発揮、6対3のスコアで初戦を突破し、3回戦に進出しました。やまみ三原市民球場には甲子園出場時のOBも多数応援に駆け付け、スタンドは大いに盛り上がりました。



続く3回戦（対舟入高校）は、7月19日にエブリイ福山市民球場で開催されました。朝から雨が降りしきる悪条件の中、開始予定時刻から4時間も遅れた14時30分に始まりました。

先発の國則投手とリリーフした松田投手が好投し、息詰まる投手戦となりましたが、勝利の女神は微笑むことなく0対1のスコアで敗戦となりました。

敗れはしましたが、最後まで力を尽くした選手たちの表情は爽やかでした。

大久保新校長に聞く

同窓会長 戸野 法史

副会長 三次 至和

大久保信行新校長先生に同窓会長戸野と副会長三次（元三原高校校長）がお会いし、創立100周年を終えた母校の未来に向けた思いや、同窓生と三原高校・在校生との連携のありようについてお話を伺いました。その時の様子をお伝えします。

◎校長先生、今日は公務でお忙しい中、対談をお願いしたところ快諾をいただき、衷心から感謝申し上げます。限られた時間ではありますが、何卒よろしくお願ひします。

◎校長先生は呉市のお生まれと伺っていますが？

校長：高校までは広で育ちました。広高校まで20分を自転車で通う、数学が好きな生徒でした。数学の教師になり、授業をするのが楽しくて仕方がないのも、高校時代の経験があるからだと思っています。

◎三原高校に着任されて4か月が経ちますが、この間の三原高校生の印象をお聞かせください。

校長：素直な生徒が多いと思います。100周年記念式典に大崎海星高校の校長としてお招きを受けた時に感じた「さわやかな」生徒という印象は今でも変わりません。

◎三原高校の学校経営で特に心がけておられること、それを端的に表現するスローガンのようなものがありますか？

校長：「伸学校」という言葉を使っています。三原高校は進学のイメージを強く持たれていると思いますが、その意味も含めて伸ばす学校にしていきたいと考えています。「伸びる学校 伸ばす学校 伸学校 三原高校」と表現するか、教育長ヒアリングでは『伸学校 伸びる学校 伸ばす学校 三原高校』と表現しましたので、どちらかを使って三原高校の良さをアピールしていきたいと思っています。

三原高校では総合的な探究の時間を『堅志学』と命名し、探究型の学習に取り組んでいます。三原市も力を注いでくれていて、市長と生徒との対話などもふんだんに設けられています。先生方も企画や指導法に様々な工夫を盛り込み、伸ばしているという自覚があります。

当然ですが、失敗もありうるし、大人の人にきちんと評価をしてもらい、それをもとに生徒たちが伸びていけばよいと考えています。

三次：生徒たちは「三原高校は良い学校でした」といって卒業していきます。勉強も部活動もしんどいけれど、どんどん成長していきます。まさに伸学校 三原高校です。



◎三原市の人口減少が止まりません。三原高校も7学級規模から現在は4学級にまで縮小しています。このような現状を打破するための戦略について、その一端でもお話いただきたいのですが。

校長：前任校の大崎海星高校は大崎上島にあります。過疎地の高校が共通して苦しんでいる「生徒減」の状況にありましたが、打開策として生徒の全国募集が認められました。これは特例的な措置であり、三原高校では同じことはできません。やはり、三原高校の生徒が成長・変容していく姿を地域に積極的に発信することが大切であると思います。地元からの応援が学校にとって最大の応援団になります。そのために地域からの協力依頼には生徒がどんどん参加して地域とともに活躍する、そのような活動を計画したいと考えています。

また、広報活動についても、進学実績をアピールするだけでなく、三原高校の楽しい雰囲気積極的に伝えたいと思います。

◎100周年記念事業の柱として整備したICT機器が今どのように活用されているのか、同窓生の皆さんの関心も強いと思うのですが、活用状況を教えてくださいませんか。

校長：まず、授業でICT機器を上手に使っているなと思いました。整備していただいた主なICT機器として、各教室に備え付けのプロジェクターとスクリーン、そして教員用のiPadがありますが、コロナ禍での臨時休校や特別欠席者に対するオンライン配信においては、これらの設備が大変有効に機能しました。画面共有等で教材を生徒のタブレットやスマホに投影することで、対面に近い形のオンライン授業をすることができました。また、文化祭やオープンスクールでも活用しましたが、県内最先端を走っていると思います。

◎また、ICT機器の賞味期限といえますか、旧式化

するスピードも速いと思うのですが、同窓生の皆さんはできるだけ長く、しかも有効に活用してほしいという願いを強くお持ちです。

校長：ICT機器の利用期間といえますか賞味期限については、教室に備え付けていただいたプロジェクターとスクリーンはかなりの期間有効に機能すると考えております。必要なメンテナンスは事務室とも相談しながら進めることができると思います。また、教員用のiPadは故障がなければメーカーによるOSの更新が利用可能だと考えています。

今後は整備していただいたICT環境をベースに、県教委の進める「個別最適化の学び」の実現のため校内研修を企画し、教員の授業力向上に取り組みます。

◎三原高校は次の100年を目指すこととなります。未来に向けた校長先生のお気持ちをお聞かせください。

校長：世界で活躍する人材に育ててほしいと思っています。その方策として、海外修学旅行を企画・実現することで、外国への視点を広げ、チャレンジしようとする意識を育てたいと思っています。

◎同窓会に期待されることは何でしょうか。

校長：三原高校での3年間の生活は単独なものではなく、100年の歴史の中にあることを生徒たちには知ってもらいたいと思っています。未来にはばたく世界で活躍する三原高校生の姿を想像しています。この重みを伝えていくために校訓『敬心愛知 堅志力行』に私の育てたい三原高校生の姿が重なります。生徒たちを温かく見守り、時には厳しく鍛えていただきたいと思います。

同窓生の方々には学校に遊びに来てほしいと思うので、いつでも遊びに来ていただけるような雰囲気のある学校にできないかなと考えています。私は停滞が嫌いで、常にごそごそ動いて前に前に進んでいきたいので、サポートをお願いします。

◎同窓会は、同窓生同士がつながる場を提供し、その活動を発信していくことが大事だと考えています。

本日は、ありがとうございました。



先輩方への感謝と

後輩諸君への期待

野球部OB会

会長 黒瀬 敏明(19回生)

第104回全国高校野球選手権広島大会は、盈進高校の48年ぶりの優勝により閉幕しました。盈進高校とは昭和20年代に数々の名勝負を繰り広げたライバル校でした。それはさておき、母校は、目標のベスト8には惜しくも届かず3回戦で敗退しました。



今年のチームは、秋の県大会でベスト8に進出、広島県高野連から戦績や学校生活、多くの制約がある中で短時間練習、地域行事への参加等が評価されセンバツ21世紀枠の広島県推薦校に選ばれました。OB会としては、この栄誉を称え記念品として「鉄製バッティングゲージ」を寄贈しました。監督、選手からは大変感謝され、一層の活躍を誓い合ったそうです。そして今年の春の県大会でもベスト8に進出、夏の大会のシード権を獲得し大いに期待していましたが、残念な結果に終わりました。

三原高校野球部は、昭和21年に三原中学校野球部として発足、その年の中等学校野球県予選の初戦で広陵中学に6対5で勝利し記念すべき1勝を挙げました。その後勝利を重ね、現在115勝を数えています。これは公立普通科校では三次、誠之館に次ぐ3位の数です。その中でも昭和20年代の30勝は抜きんできており、西中国（広島県、山口県）大会に進出した昭和25年（準優勝）、27年、29年（優勝・甲子園出場）、30年（準優勝）、32年の頃は、三原高校の黄金時代でした。その後は上位進出ができず、昭和40年代後半になると部員数が減少し休部の危機も経験しました。それでも昭和60年、61年はベスト16、63年はベスト4、平成3年、14年、15年はベスト16と、不十分な練習環境の中でもある程度の成績を残してきました。近年は、毎年10人前後の新入部員を迎えて、充実した部員数を維持しています。

終戦後の混沌とした世相の中、いち早く創部し短期間で県内有数の強豪校に育て上げた当時の指導者、教職員、市内の経済界有力者等々、それぞれの立場で強力に援助していただいた皆様に敬意を表すとともに深

本資料への記載は省略します。

感謝する次第です。

高校野球界は、私立の強豪校が躍進し好成績を挙げ続けることは困難になっています。そのような状況でも、高校野球の原点であり三原高校野球部の部訓ともいえる「強者にひるまず、弱者を侮らず、結果を考えず常に最善を尽くす」の精神を戴し、文武両道を体現していただきたいと思います。私たちOB会も野球部の発展と選手諸君の健闘を祈っています。

同窓会総会を中止しました

本年度8月13日に予定していた、同窓会総会並びに懇親会を中止しました。

オミクロン株による新型コロナの感染者が拡大したことがその理由です。会員の皆さまには、同窓会懇親会が3年続けて中止となり、申し訳なく思いますがご了承ください。

総会の議案書は同窓会ホームページに掲載し、会員の皆様への公表に代えさせていただきます。

母校創立100周年記念事業の収支決算報告に関する書類の一部を右欄に掲載しましたのでご確認ください。すべての関係書類は、同窓会ホームページの「令和4年度総会（常任理事会承認事項）」の中の「2022年度総会議案」の「8. 創立100周年記念事業収支決算報告・監査報告書」をご覧ください。この事業の正味財産の合計は、次の周年事業の際の事業資金として管理します。多くの浄財をお寄せいただきありがとうございました。今後とも同窓会活動へのご支援とご協力をお願いいたします。

皆様からの投稿をおまちしています

次回の広報誌発行が第10号という節目になります。同窓生の皆さんから、近況などを投稿していただく新たなコーナーを立ち上げたいと思っています。同窓会だよりの名称も募りたいと思います。

同窓会ホームページに記入欄を設けますので、ぜひ投稿してください。お手紙等は三原高校同窓会にお寄せください。

三原高校同窓会事務局

〒723-0014 三原市宮沖4丁目11-1
三原高等学校事務室内